

評価項目	重点目標	具体的対策（手段）及び数値目標	学校の自己評価コメント	自己評価		学校関係者評価コメント
				4	3	
① ② ③ ④ 【上】 確かな学力の向上	生徒の学習意欲を高め、教科指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の学習目標・めあてを明確にし、ICTを含む教材・教具の工夫を図る。 諸検査を活用し、生徒の学力の課題を見つけ出し、授業の実施および分析を行うことで、その克服に努める。 生徒の学習意欲等のアンケート調査を実施し、授業に対する満足度の割合が80%以上をめざす。 4：80%以上 3：60%以上 2：40%以上 1：40%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の目標や授業の流れを黒板に明示したり教材教具の工夫を行ったり、互いの授業を参観したりして、教科指導の充実を努めた。 教科や学年ごとに、生徒の課題分析や実態の把握に努め、授業での具体的な指導に役立てた。 学習意欲等に関するアンケート結果から、授業に対する満足度は83%であった。さらに、わかりやすい授業づくりを目指し、授業改善に努めた。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 自宅学習で分からなかったことを質問等できる機会はあるのだろうか。 計画的、具体的な指導の成果が出たものと思われる。今後も継続的な取組を希望する。 非常に対応できている。 とりこぼしの削減に向けての対策も充実を図ること。 生徒が理解することは、行きたい（楽しい）学校につながるのだから工夫をお願いします。 オープンスクール、参観をみていると先生が伝えようとする気持ちが現れていた。 参観日の授業を見ました。わかりやすく覚えやすいように工夫されていたと思う。 授業に対する満足度が毎年良い方向に改善されているのは先生方の指導の結果だと思います。 授業に対する満足度が83%という結果は、良い方だと思う。質問内容の「勉強する意欲が高まった」のか「授業がわかった」のか詳細を知りたい気もする。
	「学習の心得五ヶ条」の指導徹底を図り、学業指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学習態度確立週間の活用を通して、姿勢を重視し、学業についての教科ごとの指導充実を図る。 授業中の学習態度A評価の割合が90%以上をめざす。 4：90%以上 3：80%以上 2：70%以上 1：70%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動と併せて定期的に学習態度確立週間を設定し、学習態度の意識づけを行った。家庭学習についても調査を行い生徒の学習の様子を把握し、指導に役立てている。 授業中の学習態度A評価の割合は85%であった。さらに改善が図られるよう指導に努めた。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・学校とも周囲の環境でかわるので意志の疎通を図る。 学年が上がるにつれ、授業時の雰囲気、態度が違いおもしろいと思った。 授業を参観させていただいた時に感じたことは、とても静かで皆まじめに取り組んでいて、先生方も熱心に指導をされていたのですばらしい。
	キャリア教育の充実にも努め、生徒一人一人の個性に応じた進路指導を推進する。教師の指導内容を研究や経営方針と絡めて検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査を計画的に実施するとともに、情報提供（進路に関する掲示物の活用、進路便りの発行）を積極的にを行い、生徒の進路に対する意識を高める。 年間指導計画に基づいて、道徳、学活、総合的な学習の時間を関連づけた各学年の進路指導を意図的・計画的に行う。 「夢や進路について考えている」生徒の割合が85%以上をめざす。 4：85%以上 3：75%以上 2：65%以上 1：65%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意識調査では、「夢や進路について考えている」と答えた生徒の割合が、全学年10月に比べると大きく伸びた。1年69→78%、2年59→76%、3年72→88%で全体平均は約80%であった。1年は職業調べやテクノフェア参加、2年は職場体験学習、3年は高校説明会や三者面談などで意識が高まったと考えられる。 全校生徒を対象に進路希望を調査し、生徒の考えを把握するとともに、参観日の懇談や各通信で進路に関する情報を提供した。 今後は、教科指導においてもキャリア教育の視点を意識した指導を図ってきたい。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 教師のスキルアップのための研修は実施されているのだろうか。 人口減少時代には、必ず学校統廃合がなされる。学校が生き残るための検討がなされているのだろうか。（未来へは現在からつながっていく） 進路意識と学習意欲の喚起を重視した指導が学力向上につながっているものと思われる。 よく取り組んでいると思う。今後も継続してほしい。 「300のしごと」の本を生徒に配付し、意識の高揚を図ってきたと思う。 親の情報提供も大事である。 各学年、体験や調べて知ることにより意識が高まり、良いと思う。 3年生の意識が昨年の97%から88%に下がったのは昨年が良すぎたのでしょうか。
	家庭学習2時間以上を目標とした指導および家庭への啓発を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の仕方を、各教科および学級で具体的に指導を行う。 課題を確実にを行うために、サルビアノートへの記入徹底を行う。 学級通信や学校便り等の発行を通して、家庭への啓発を行う。 宅習2時間を達成した割合が80%以上をめざす。 4：80%以上 3：60%以上 2：40%以上 1：40%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の課題や毎日のサルビアノートを活用し、家庭学習の習慣化と学習内容の充実に取り組んだ。 定期的に行っている家庭学習の時間のアンケート結果から、宅習を2時間以上取り組んでいる生徒の割合は、11月の結果で全体の74%であった。3年生は90%以上であるが1、2年生は60%程度であり、学年により意識の差が見られる。 今後、長時間のスマホやゲーム等の時間の弊害と併せて、繰り返し効率的な家庭学習のあり方について、指導をしていきたい。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 自宅学習で分からなかったことを質問等できる機会はあるのだろうか。 サルビアノートを記入することが目的になってはいないだろうか。記入する時間はどれくらいだろうか。 先生たちの指導と保護者の理解と協力の賜物と思う。今後も頑張っていたきたい。 目標設定（2H以上）は必要だが、さらに効率的な学習について、具体的なものは示せないのか。 1日1日の積み重ねの大事さをどうにかして理解してもらいたい（目標を持たせる）。 先輩達（高校生）の体験談を語ってもらおう。 宅習や2時間以上は、家庭での協力も必要。 家庭での学習時間を正確に把握するのは難しいと思うが、家庭との連携を深め励ましてほしいと思う。宿題以外の学習に時間を使いたい生徒（難関高校を目指す）への配慮も必要ではないだろうか。

【生徒指導・豊かな心の育成】	①	<ul style="list-style-type: none"> 心豊かな生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ根絶週間や教育相談を通して、他者を気遣える生徒の育成をめざす。 生徒の自己評価で「思いやりの心が以前より身に付いてきている」と答える生徒の割合が80%以上をめざす。 いじめ・不登校対策委員会において、早期発見と対応策を迅速に行う。連続30日以上欠席している生徒を1名以上通常登校できるようになることをめざす。 4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止集会では、弁護士を講師に招き、全校生徒対象に話をして頂いた。また、いじめ根絶週間では、いじめ相談員を中心とした話し合いを設定し、生徒の意見を多く取り入れた。その結果、10月の調査の79%から今回の調査で90%に増加した。いじめ防止の取組を、全校・学年・学級という流れで計画的に行うことで成果が見られた。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止の取組を生徒主体で実施することはすばらしい。 生徒個人レベルでのトラブル解決の技法等については必要ないのだろうか。人間には、トラブルが付きものである。 全先生方の共通理解の基に計画的で充実した指導がなされていると思われる。 最近いじめとか非行についてのうわさもないようだが、些細なことでも情報を流してほしい。 自己評定で期待以上は素晴らしいと思う。 生徒がいつも先生に相談できる雰囲気は今以上につくってほしい。 心の問題は難しいですが、今よりも良い方向に向かってほしい。 いじめ防止の取組をいろいろ考えていただいていると思います。 いじめは犯罪であるという意識を持たせ、人の心の痛みがわかる人になれるよう導いてほしい。
	②	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器を適切に活用する態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラルに関する集会や授業を通して、情報や機器の適切な活用について啓発を行う。 「情報や機器を適切に活用(個人情報保護、誹謗中傷の有無など)できている」と答える生徒の割合が90%以上をめざす。 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の91%から今回の調査で97%に増加した。外部から講師を招いて、情報モラルと人権について具体的に学習を行った。また、技術の授業やいじめ防止集会、全校集会での指導等を通して、情報機器を活用する場合の意識の高揚が少しずつ図られてきたと考えられる。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンでの被害に遭ったケースはないのだろうか。 全先生方の共通理解の基に計画的で充実した指導がなされていると思われる。 学校や家庭を通じての情報共有を更に図ること。 生徒への意識は改善されているが、親が理解していないので親子で学ぶ機会をつくる。 情報機器は、すごく便利だが怖さも十分知ってほしい。 SNSへの不適切投稿など世間では、大変な問題になっている。本人の人生を狂わす危険性について指導してほしい。
	③	<ul style="list-style-type: none"> 三清清掃(時、場、心の清掃)に則って、一生懸命清掃する態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃態度徹底週間の点検活動を確実にを行い、三清清掃の徹底を図る。 点検結果から、「無言で、時間いっぱい清掃している」生徒の割合が90%以上をめざす。 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の委員会活動や日常の教師の見守りなどにより、無言時間いっぱい清掃する生徒の割合が、前回の88%から今回の調査で92%に増加した。また、改善が必要な一部の清掃場所について、より重点的に指導を行ったことも要因として考えられる。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 全先生方の共通理解の基に計画的で充実した指導がなされていると思われる。 自宅等で、清掃や片づけができるようになること。 広瀬中生徒なら100%は可能です。伝統を継続しながら目指しましょう。 指導の結果が現れて、高評価につながりよかったと思う。 清掃態度がよくなると汚さないという方向にも目がいくようになっていいことですね。
【健康・体力づくり】	①	<ul style="list-style-type: none"> 健康・規則正しい生活に対する意識や実践力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康振り返りカードを使い、自己分析させ、課題意識をもたせる。 生徒主体の活動による健康教育を進める。 12時までには寝ることができた生徒の割合が80%以上をめざす。 4:80%以上 3:75%以上 2:70%以上 1:70%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 年3回健康振り返り週間を設定し、自己の健康について振り返ることで自分の健康を目標として実践する生徒が多くなった。 各月の委員会目標に沿って積極的に活動した。特に全校生徒を対象に歯科に関する保健指導を年2回のほか、眼科や姿勢についても各学級でも行った。 12時までには就寝できた生徒は、約90%であった。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携の基に、基本的な生活習慣を重視されており、計画的、継続的な指導の成果を感じます。 健康面で、社会的に問題(話題)になっている事象などを活用してはどうか。 虫歯治療については、保護者への粘り強い周知徹底をお願いします。 自己管理で改善できるので、就寝については100%を目指して欲しい。 子どもたちの健康は、家庭でも協力が必要。 虫歯の治療について6項目に促すと思うが、本人や親が忙しいのか病院になかなか行けずにいるのではないだろうか。
	②	<ul style="list-style-type: none"> 給食マナー5カ条の徹底を図り、食に関する指導・給食指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1日の食事(朝食・昼食・夕食)の栄養バランス、エネルギー量等を自分の生活スタイルに合わせて考えさせる。 食事のマナーや食に対する感謝の心を育てる指導を充実させる。 給食指導週間の点検項目のA評価が80%以上をめざす。 4:80%以上 3:75%以上 2:70%以上 1:70%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の給食時の放送で、栄養バランスのことや食物に関する内容を伝えることで生徒の食意識の向上が図られた。 年1回の弁当の日や給食感謝集会を、計画的に実施することができた。 給食指導週間の点検項目のうち、給食準備片付けの時間の項目とマスク忘れの項目のA評価は70%であった。 今後、各学級の学級担任と給食委員及び給食当番が連携して、指導の徹底を図るようにしたい。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携の基に、基本的な生活習慣を重視されており、計画的、継続的な指導の成果を感じます。 残食量の状況はどうか。 学校だけでは定着できない部分もあるので、保護者への意識を変えてもらうのも大事(弁当の日の意義)。 食の大切さ、作ってくれている人の大切さも十分理解できていると思う。
	③	<ul style="list-style-type: none"> 安全・防災教育を充実させ、安全意識の高揚、危機回避能力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検を行い、危険箇所の把握、改善を行う。 避難訓練や防災教育を通して、防災に関する意識を高め、日常生活の過ごし方や行動につなげさせる。 避難訓練に対する評価項目のA評価が90%以上をめざす。 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検を毎月計画的に実施し、生徒と職員でチェックした後、できる部分は職員で、できない部分は業者や教育委員会に依頼して、確実に改善を図られるようにした。 12月の避難訓練は、火災を想定して実施したがスムーズに行動でき、防災意識を高めることができた。避難訓練に対する評価項目のA評価は90%以上であった。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> チェックする生徒は毎回同じ生徒なのだろうか。 学校の管理下でない登校時の巨大地震を想定した避難訓練はあるのだろうか。 保護者との連携の基に、基本的な生活習慣を重視されており、計画的、継続的な指導の成果を感じます。 安全点検のチェックで、主なものはどんな部分なのか。 小学校との連携もどれ、学年ごとに小学生への対応方法も取れていると思う。(しっかり廊下に貼り付けてある) A4ではなくA3にしてほしい(図解) 点検を毎月行って、改善につながってよかった。 防災意識を高めるために家庭で話をしている子どもたちはどのくらいいるのでしょうか。

【地域教育の推進・開かれた学校づくり】	①	各種通信やHPの充実等情報発信を積極的に行う。	<ul style="list-style-type: none"> 各種通信の計画的な発行に努める。 HPを毎月更新する率80%をめざす。 4：80%以上 3：70%以上 2：60%以上 1：50%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 8月にホームページ更新の方法について、研修会を開き全職員がホームページの更新ができるようになった。ホームページは月に1回の割合で更新できている。 今後は、保護者や視聴者の要望も聞きながら内容の充実を図り、情報の提供をしていきたい。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 今後も更なる充実を希望します。 いつもHPを見ています。無理なく更新を続けてください。 忙しい中、研修会を行い全職員の方が更新できるようになったことはすごく良かったと思う。これからの内容も楽しみである。 HPの更新は、大変だと思うがぜひ続けてほしい。
	②	地域資源（人材、素材等）の積極的な活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間、道徳の時間等で、地域人材、郷土資料を使った授業を、各学年、年3回以上の実施をめざす。 実施回数が 4：3回以上 3：2回 2：1回 1：0回 	<ul style="list-style-type: none"> 6月の啓次郎の日や総合的な学習の時間の中で、多くの地域の人材を積極的に活用することができた。また、学校や地域主催のボランティア活動に多くの生徒が参加するなど、地域に貢献しようとする態度や、地域を誇りに思う生徒が育成されてきたのではないかと考える。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 今後も更なる充実を希望します。 学校外での「あいさつ」があまりできていないように感じる。 地域の誇りは自分の誇りにもなり、大人になっても心の中にあるものなので、これからも継続をお願いします。 ボランティア活動に積極的に取り組む姿にたくさん会いました。あいさつも笑顔もあり良かったと思います。 あらゆる行事でボランティア活動を目にします。素晴らしいです。
	③	地域との連携を図ったボランティア活動を年間計画的に沿って行い、内容の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会の活動を積極的にし、ボランティア活動の参加を推進する。 年間2種類以上のボランティアに参加する生徒が90%以上をめざす。 4：90%以上 3：80%以上 2：70%以上 1：70%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 2種類以上のボランティア活動に参加した生徒は、10月の調査では55%であったが、今回の調査では80%に増加した。増加の要因として、生徒会を中心とした朝のあいさつ運動や清掃ボランティアの取組や地域ボランティアへの積極的な参加を呼びかけたことなどが考えられる。中には、自主的に校内の清掃ボランティアに取り組む3年生もいた。今後も生徒会を中心に、校内外のボランティア活動を呼びかけていきたい。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 今後も更なる充実を希望します。 よく参加できている。 ボランティアに対する生徒の意識は高くなっているので全生徒1回は参加してほしい。 先生方も多忙だと思うが、学校周辺に関する地域活動への関心度にごく差がある。 地域の行事にボランティアで参加してくれる子どもが増えてとても助かっている。
【特別支援教育の充実】	①	生徒一人一人のニーズに応じた教育支援システムを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画、指導計画の整備・活用に努める。 個別の支援計画、指導計画が必要な生徒の把握と対応及び進捗について各学年で定期的に検討を行う。（学期1回以上） 4：年間3回以上 3：年間2回 2：年間1回 1：年回0回 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年ともに、個別の支援計画と指導計画を整備することができた。 個別の支援計画と指導計画の活用については年2回行った。今後、計画の補正修正を行い次年度に向けての引き継ぎを確実にしていきたい。 各学年(全体)での生徒の把握と対応については、学年会やケース会議を開くなど、その都度共通理解しながら進めてきた。 今後は、個別の支援計画・指導計画の活用について全職員で共通理解を図り、実践していきたい。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の行動等を観察して、その生徒特有の才能を見つけることをされているのだろうか。 特有の才能を見つけた場合に、外部から指導者を招聘することができるのだろうか。 全職員の共通理解の基に、より個に応じた指導の充実が成されており、今後も更なる努力を期待します。 更なる生徒への対策が充実、向上するように努めてほしい。 全職員の共通理解は、大変と思いますが計画、実践は実現してほしい。
	②	校内支援委員会の活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 校内支援教育推進委員会の定期的な開催（月1回）を行う。 4：月2回 3：月1回 2：平均月1回未満 1：年回0回 校内支援教育推進委員会での検討内容をもとに、全職員での共通理解を確実にする。（朝の生徒指導連絡会の活用 週1回開催） 4：毎週 3：月3回 2：月2回 1：月1回以下 	<ul style="list-style-type: none"> 校内特別支援教育推進委員会は、生徒指導対策委員会と併せて月1回以上実施できている。 校内特別支援教育推進委員会での協議を受けて、全職員への報告と共通理解を行っている。特に、1月以降は毎週火曜日に全職員への報告を行い、共通理解を図っている。 今後は、校内特別支援教育推進委員会を、月2回計画的に実施していきたい。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 委員会の目的は何か。 委員会での結果をどのような行動につなげているのだろうか。 全職員の共通理解の基に、より個に応じた指導の充実が成されており、今後も更なる努力を期待します。 更なる生徒への対策が充実、向上するように努めてほしい。 全職員で共有することは大事でそれぞれの役割はあると思うが全員で協力、支援をお願いします。
	③	特別支援教育に関する専門性の向上につながる研修の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学期1回以上は、特別支援教育に関する研修を実施する。 4：年間3回以上 3：年間2回 2：年間1回 1：年間0回 必要に応じて来校を求めるなど、関係機関との連携に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の研修は年間2回実施できた。主な内容は、生徒理解、生徒の指導・支援の在り方等である。 職員研修や生徒理解について、日章学園高校やみやぎ中央支援学校等と連携を行った。 今後は、年間3回以上の研修を実施できるように計画、立案していきたい。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の共通理解の基に、より個に応じた指導の充実が成されており、今後も更なる努力を期待します。 更なる生徒への対策が充実、向上するように努めてほしい。 他校との意見交換は大切だと思う。 特別支援教育の研修が昨年の3回から2回になったのは理由がありますか。